

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成27年11月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

精神医学とあいまいさ

谷 将之

昭和大学 医学部 精神医学教室

私たちは病気の人に病名をつけます。病気でない人には病名はつきませんね。じゃあ病気とはなんだろうか、と言えば、平たくすれば“人が困ったり、寿命が短くなるような身体の異常”ということなのでしょう。身体が異常でも、その人が困らなければ病気ではないですね。例えば、ものすごく頭が良い人とか、絶対音感といった飛びぬけた特徴を持っていても、それは病気とは言いません。わかりきったことのようにですが、精神障害ではこの“困るような”という線引きがとても難しいことがあります。

スペクトラムという用語があります。これは精神医学において、色々な障害がひとつの繋がりになっている、という概念です。例えば、自閉症というのは、すごく物事へのこだわりが強く、社会的な交流やコミュニケーションが苦手という特徴が生まれつき備わっていて、本人や家族が困ってしまう病態です。言葉の遅れがある場合は自閉症、ない場合はアスペルガー障害と呼ばれ、もっと軽い人は“特定不能の広汎性発達障害”と呼ばれたりします。このような障害をひとつづきと捉えて精神医学では“自閉症スペクトラム”と呼ぶのですが、もっともっと軽い人、例えば、少しこだわりが強く、いくらか空気が読めない人はどうでしょうか。その人が運悪く引きこもりになって困っていれば精神障害で、その特徴を生かして優秀な技術者になれば正常なのでしょう。その判断は本当に正しいのでしょうか。

精神医学では身体的な検査で診断をできないので、このような曖昧さが常に問題視されてきました。皆さんも重い罪を犯した人や、ひどく変わった人の心について、それがどこから病的で、どこから病的でないのか、という判断が難しいということはなんとなく想像できるでしょう。今、皆さんが勉強しているICD-10では、精神の障害をかなり精密に分類しましたが、結局この曖昧さを完全に打開することは出来ませんでした。それでも、このような現状をなんとかしようと、現在作成が進んでいるICD-11では多少の曖昧さを残しつつも、かなり厳密に線引きをする形になってきているようです。逆に言えば、診断の概念や病名そのものが他の領域の疾患に比べて大幅に変更される可能性があります。精神医療に携わる方はこの先かなりややこしい事態に直面するかもしれませんが、精神医学の発展のため、是非ご協力いただければと思います。

